

岡山県美咲町議会

事績1 政策づくりと監視機能を十分に発揮している議会

1. ペーパーレス議会×SDGs

平成24年6月に議会基本条例を制定。美咲町議会の目指すところは、国連において採択された持続可能な開発目標（SDGs）の誰一人取り残されないようにする理念と合致しており、各議員が関連して一般質問を行うなど議会としてもSDGs17の開発目標達成に向けて取り組んでいる。

一例として、本町議会ではタブレット端末導入のメリットであるコストの削減、作業効率の向上、情報の携帯性、安全性の確保を早くから認識し、平成30年から常任委員会において試験的にペーパーレス会議を行ってきた。また、本町は岡山県中央部の過疎化が進む中山間地域で、林業は町を支える重要な産業であることからSDGs15番目の開発目標「陸の豊かさを守ろう」を意識し、令和3年4月の改選時期に合わせ、完全ペーパーレス化を目標に取り組んできた。

改選では新たに7人の議員が当選、ペーパーレス会議は未経験でありながら、ペーパーレス化の趣旨を理解し、6月定例会前の議会全員協議会から、全議員にタブレット一式を貸与し、6月定例会協議調整の議会運営委員会及び議会全員協議会、そして6月定例会本会議、会期中の常任委員会と完全ペーパーレスに移行し、以後ペーパーレス議会を実施している。

また、9月定例会での決算認定特別委員会においては、決算書及び決算報告書など執行部からの膨大な紙資料をペーパーレス化することにより、用紙代印刷代はもとより印刷製本にかかる作業時間の抑制にも繋がり、ペーパーレス議会導入による働き方改革実現にも寄与し、SDGs開発目標「8.働きがいも経済成長も」「12. つくる責任 つかう責任」に結びついている。

2. 議会BCP×ICT

平成24年6月21日本町議会は、多様化する町民の意思を的確に反映し、議会・議員活動の活性化と充実のため、県下町村初の議会基本条例を制定した。平成28年9月23日には、基本条例に議会議員政治倫理規程に関する規定を新たに設けた。このことは、SDGs開発目標「16. 平和と公正をすべての人に」

の視点を併せ持っている。

本年5月20日、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発令される中、タブレット端末を活用しオンライン研修を行った。

「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が6月に改正されるのに合わせ、識者先生を講師に迎え、ハラスメント防止とコンプライアンスについて議員全員を対象に研修を実施。これから新たに参画したいすべての人にとって、美咲町議会が開かれた議会であることを示し、かつ本研修がジェンダー平等を目指した点でも、識者先生から高い評価をいただいた。このことは、緊急事態宣言下の議会活動の維持継続の重要性を改めて感じる事となった。

本年8月30日には、議会基本条例に大規模災害や新型感染症などが発生した場合でも、議会の機能を停止することなく、議会運営が出来るよう災害時での議会の責務を明記、美咲町議会業務継続計画（議会BCP）に基づく活動実施を規定し、同時に業務継続計画を策定した。本計画は、発災直後から1カ月間の行動指針を誰もがわかりやく4段階に分けて例示している。

また、美咲町議会災害対策会議と本町の災害対策本部と連携を図りつつ、議員に配付したタブレット端末を活用し、災害時においてリモートで各議員と安否確認、災害情報や対応情報のやり取りを行い、本対策会議で大型モニターを使用したオンライン会議の体制も整備し、議員すべてと連動した情報共有を可能にし、非常時においても議会活動の平常化を意識し、議会業務継続体制を構築した。

3. 政策提案×美作大学実習生

本年10月14日、美作大学社会福祉学科学科長と同学科4年生二人を招いて、事例発表及び意見交換による議員研修を実施した。

現在、社会問題となっている「ダブルケア」と「ヤングケアラー」について、約1か月間、美咲町社会福祉協議会で実習を行い、その実習期間に福祉教育の実践を学び、社会福祉士を目指す学生二人が、全国事例を踏まえ、課題解決に向け、本町が取り組むべき内容を発表した。その後の意見交換は、学科長、事例発表を行った学生二人と社会福祉協議会の福祉活動専門員に各テーブルについてもらい、この対話が課題解決に向けた政策提案、施策提言につなげることを目的にワールドカフェ形式でワークショップを開催した。ワールドカフェによる対話を取り入れたことで、現職議員と新人議員が交わり、活発な意見交換が行われた。開催後のアンケートでは、各議員から施策の提言が記入され、満足のいく研修と

の回答につながった。今回の研修は、美作大学社会福祉学科とパートナーシップを構築する貴重な機会となり、今後は社会福祉学科と協働活動を進め、町民全体の福祉の増進・向上及びSDGs開発目標「3. すべての人に健康と福祉を」を図っていく。

また、令和元年度第34回町村議会広報全国コンクールにおいて優良賞の実績を持つ本町議会の議会だよりや地元ケーブルテレビ、YouTubeを活用、大学広報室とも連携を図り、SDGs開発目標「4. 質の高い教育をみんなに」としても大学との取組を広く周知し、町民が幸せを実感できる政策を提言できる議会として活性化推進に努めた。

事績2 住民に開かれた議会

「開かれた議会×対話の場づくり」

平成24年6月議会基本条例制定に合わせ、美咲町議会では「住民に開かれた議会」を目指し、議会報告会及び意見交換会を実施してきた。合わせて、毎年、反省点を踏まえ、出来るだけ多くの人の意見を吸い上げるよう工夫してきた。

令和2年、コロナ禍の影響により報告会及び意見交換会は延期とし、代わってアンケート実施した。本年においてもコロナ感染症第5波の影響により、開催の延期を余儀なくされたが、アフターコロナの報告会、意見交換会のあり方を研究すべく、10月27日には識者先生を本議会に招き、多様な関係を紡ぐ対話の場づくり ～対話を通じてまちの未来を語ろう～と題して、新たな報告会及び意見交換会の場づくりについて学び、より開かれた議会を目指すとともに、SDGs開発目標「10. 人や国の不平等をなくそう」「11. 住み続けられるまちづくりを」「17. パートナーシップで目標を達成しよう」につなげている。

「担い手の育成×未来の議会」

子どもたちは、次の世代の民主主義を担う町の宝であることから本町議会では、平成28年夏の参議院選から選挙権が18歳に引き下げられることを踏ま

え、合併10周年記念事業として平成27年12月10日、町内全校の中学3年生による模擬議会「子ども議会」を開催し、昨年、今年とコロナ感染症のため中止となったものの、毎年継続して行っている。自分たちの夢や希望を通じて、子ども達一人ひとりがより住みやすい町にするにはどうすればいいかという考えを持って町政に関わることで郷土愛を醸成する一方、生徒たちの視点からの一般質問が、議員への一般質問、政策提言にも影響を与えている。また、女性の議会参画への取組についても進めており、昨年には妊娠・出産・育児・介護に係る欠席事由の拡大などの体制整備、今年に入り事績1でも記載したハラスメント研修をいち早く実施するなど、SDGs開発目標「4. 質の高い教育をみんなに」「5. ジェンダー平等を実現しよう」に連動して取り組んでいる。

「誰一人取り残さない×伝わる議会」

平成18年8月、合併後最初の定例議会を受け、議員一人ひとりの活躍を、そして、議会の情報を町全域の人に正確に伝えるため議会だより創刊。なんとかうまく伝えようと工夫をしながら、先進議会広報の研究や議会クリニックへの参加による専門家からのアドバイスを積極的に取り入れ発行してきた。その結果、平成21年第23回町村議会広報全国コンクールにおいて奨励賞受賞。26年第29回全国コンクールでは表紙写真部門において奨励賞を受賞。令和2年第34回全国コンクールでは岡山県下、町村初の優良賞を受賞した。また、平成30年2月発行の議会だよりからは、町内ボランティアグループとのパートナーシップによる声の議会だよりも合わせて作成。SDGs開発目標の「10. 人や国の不平等をなくそう」「11. 住み続けられるまちづくりを」「17. パートナーシップで目標を達成しよう」に取り組んでいる。現在は、町内全世帯や事業所に届く議会だよりと議会ホームページを連動。映像を議会だよりに載せ、伝わりやすく、よりわかりやすい情報の発信に取り組んでいる。